

# 和僑大会開幕 商機狙う

## 那覇 国内外64社・団体出展

海外でビジネス展開する日本人起業家などをつくる国内外の「和僑会」が一堂に集う「和僑アジア大会」2010 in OKINAWAが25日、那覇市のサ・ナハテラスで開幕した。会員企業の商品やサービスを紹介する国際ビジネス展示会に国内外の64社・団体が出展。アジアでの事業展開に関心のある企業関係者や起業家らでにぎわった。26日まで。

北京、上海、シンガポール、タイなどアジアから約300人が参加。一般の来場者を含め約5000人規模の大会となる見込み。

中国四川省成都のウイナーソフト社と6月に合弁会社を設立したソフトウエア開発のインテックス沖縄(浦添市)は、取り扱う予定の中国語学習ソフトなどを紹介。沖縄和僑会の副代表幹事も務める同社の栗田智明社長は「単なる展示会ではなく、活発な商談

が行われ、いい情報交換の場になった」と交流拡大に期待した。

26日は、香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏やオファクトリー代表理事の平田大一氏がアジアにおける沖縄の役割や文化産業の可能性について講演するほか、各和僑会の代表者らが3会場に分かれてネットワークを生かした海外での経営事例などについてセミナーを開く。



国際ビジネス展示会で商談する各和僑会の会員ら。25日、那覇市、サ・ナハテラス



當山丞氏

## 上海和僑会 「中国への進出 後押し」

25日開幕した「和僑アジア大会」に昨年12月、上海和僑会を立ち上げた臬出身で、ネパールインターナショナルトレードディング社社長の當山丞氏(33)が参加している。

百円ショップメーカーで中国での商品の製造・出荷の統括を手掛けた経験から、「県内企業に中国での事業展開のノウハウを提供し、海外進出の後押しをしたい」と言い、アジアと沖縄の「橋渡し役」としての意気込みを語った。

3年前に独立し現在、香港や上海を拠点にホームセンターやファミリーレストラン、コンビニエンスストアなど日

本国内の1000店舗以上に中国製の業務用品や日用品などを卸す事業を展開している。将来、百円で販売する商品作りのノウハウを沖縄に持ち帰り、「中国製の商品を本土経由の高い価格で仕入れていく沖縄の現状を変えたい」と話す。沖縄に東南アジア製の商品を集約し、本土事業者が仕入れに訪れる仕組みの構築を目指したいという。

上海と沖縄を直接結ぶ環境づくりに「和僑会のネットワークが生かせる」と期待する。アジアでのビジネスに挑戦する県内企業を沖縄和僑会が束ね、商品の仕入れや出荷に掛かる1社当たりの物流コスト削減を提案。

「海外での事業を少しずつ習慣化することで、将来の成長につなげることができると」。中国進出の不安を取り除き、海外ビジネスの面白さを伝える場としての「和僑会」に期待した。

## カツオだしも石垣から発信

【石垣】「石垣の塩」(石垣市、東郷清龍社長)が与那国町漁協や市内の食品会社と今年3月に設立した「石垣島かつおだし」社がこのほど、同町の漁師が一本釣りしたカツオや自然海塩「石垣の塩」など県産素材を使用した無添加かつおだしを商品化した。25日に石垣工場の落成式があり、同社の東郷代表が「全国、海外へも販売展開する。これからも自然のもの、地元の食材を生かした商品を開発していきたい」と意欲を語った。

与那国の漁師にとって、カツオやシビマグロは主にカジキ漁の餌としてしか使われない「未利用魚」。同社はジャーキー

状のマグロスティック重山のウミンチュのする」としている。原町にある1次加工場た上で粉碎し、石垣ツオの煮汁から抽出と混合して味を調え、両工場の職員数は1人。石垣工場では1人が生産可能だが、当産態勢を取るといって予定しているほか、日、沖縄セルラーを配布する。